

# 13. 【陸域：陸上養殖】 未利用地であった埋立地を活用した陸上養殖施設の整備：走漁港（広島県福山市）

## 概要

- 走漁港は、以前は島内における水産加工業が盛んであったため埋立により加工場用地を整備したものの、完成時には漁獲量の減少及び漁業者の減少が進んでおり、用地への加工場の建設が進まなかった。
- 未利用となっていた漁具保管修理施設用地及び加工場用地を活用し、広島県で公募した事業者が陸上養殖施設を設置。
- その結果、アオノリの安定供給、地元雇用の増や県有施設使用料の増等の効果が期待される。



## 背景

- 走漁港は、平成8年には県内第1位の漁獲量を誇り、島内でイリコとのりの加工が盛んに行われていた。
- 住宅地と離れた場所に十分な加工場用地を確保するために埋立を行ったが、竣工時（平成22年）には漁獲量及び漁業者の減少が著しく、埋立地への加工場の建設が進まず、未利用となっていた。

## 有効活用の内容

- 未利用となっていた漁具保管修理施設用地及び加工場用地を活用し、スジアオノリ等の陸上養殖施設を整備。
- 事業者は公募により決定。
- 既に養殖を開始しており、何度かの収穫を迎え、順調に進んでいる。

活用した漁港施設	漁港施設用地（漁具保管施設修理施設用地、加工場用地）
実施時期	令和2年
実施主体	民間事業者
活用した制度	離島地域における税制特例
実施した手続き	財産処分（目的外使用）、占用許可、漁港施設用地利用計画変更

走漁港



## 期待される効果

- 生産量10 t を目標としており、将来的には15 t まで増加させる計画。
- 地元（島内）で従業員18人をパートで採用し、雇用が少ない離島地域において新規雇用が創出された。
- 未利用の漁港施設が利用されることにより、その施設使用料が年間約340万円となり、使用料の増となる。
- 陸上養殖をすることにより、海水温に影響されにくいことや、夾雑物（きょうざつぶつ）が混入しにくい効果がある。